

施策番号	1901		
施策名	市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の拡充		
概要	生涯学習関係機関・団体との連携を密にし、京都ならではの豊富な学習資源を相互に結びつけるとともに、市民に身近な学びの拠点の充実・活用を図る。		
担当局・部室	教育委員会・生涯学習部	共管局・部室	
上位政策	19 生涯学習		
施策に関係する 主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		27年度	28年度	29年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1	学校における地域の学びの場の創出(箇所数)	a	a	152	186	160	116.3%	a	1.00
2	京都市図書館利用登録者数(万人)	b	b	44.9	43.6	47.0	92.8%	b	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		27年度	28年度	29年度回答					
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数
1	京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。	a	a	147 32.0%	217 47.2%	79 17.2%	11 2.4%	6 1.3%	460
2	-	-	-						
3	-	-	-						
4	-	-	-						
5	-	-	-						
		a	a	市民生活実感調査総合評価					a

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている						
	重み付け	☐ 客観指標	a	☒ 市民の実感	a		
(重み付けの理由) 多彩な市民のニーズに応えられているかは、客観指標よりも実際に利用されている市民の実感に重みを付ける方が適切であるため						28年度	A
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。						27年度	A
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		29年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		28年度 決算額	29年度 予算額		
1	京都市歴史資料館	75,437	77,279	普通	文化市民局
2	女性研修	43,037	51,141	良い	教育委員会
3	生涯学習情報提供システム	2,978	3,095	良い	教育委員会
4	生涯学習市民フォーラム	5,738	5,900	良い	教育委員会
5	京都市生涯学習総合センター(京都アスニー)	339,628	335,093	普通	教育委員会
6	京都市生涯学習総合センター山科(アスニー山科)	102,337	100,836	良い	教育委員会
7	京都市図書館	1,610,672	1,627,862	良い	教育委員会
8	京都市学校歴史博物館	91,292	93,974	普通	教育委員会
9	みやこ子ども土曜塾	61,471	32,592	かなり良い	子ども若者はぐくみ局
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・生涯学習の情報検索サイトのコンテンツの充実やSNSサービスの活用、生涯学習関係団体相互の連携と情報共有を進めるとともに、学校を活用した様々な事業の実施や、博物館や大学等と連携した多様な学習機会の提供・充実を行うことにより、幅広い世代のだれもがいつでもどこでも学び続けることができる環境づくりを推進する。

・市立図書館については、トイレの洋式化や地域館の児童コーナーの改修、中高生が利用しやすい雰囲気づくりを実施するなど、環境の整備とサービスの充実を図るとともに、4つの中央館において試行実施している土曜日の開館時間の延長などの取組により、最も身近な学びの拠点として、より一層の利便性の向上を図る。

・醍醐中央図書館等では病院との連携により、認知症の方に対する読み聞かせや、昔を思い出す体験で認知機能の改善を図る「回想法」の取組を実施している。こうした取組を他館へ拡大するとともに、各館に集積した図書や情報と国会図書館をはじめ全国に広がるネットワークを活かし、ビジネスや子育て支援等に向けた情報提供など、本市図書館が培ってきた、利用者の相談に応じるレファレンス機能の拡充などについても取り組んでいく。

施策名	1901	市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の拡充
-----	------	---------------------------

指標名	学校における地域の学びの場の創出（箇所数）
-----	-----------------------

担当課	生涯学習部生涯学習推進担当	連絡先	2 5 1－0 4 1 0
-----	---------------	-----	---------------

1 指標の説明

学校と保護者、地域住民の協力の下、市立学校等にビオトープやベンチテーブル等、ふれあい交流活動や開かれた学校づくりを促進する環境を手作りで製作・整備し、地域の学びの場を創出する「学校ふれあい手づくり事業」の実施箇所数

2 指標の意味

市民ぐるみで子どもたちを育むための地域の参画・協働による学びの場の創出状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	152	186	34箇所増	160	中長期目標値(32年度)を段階的に達成していくために、当該年度に達成すべき数値	116.3%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		200	32年度	93.0%	学校園総数の約7割相当箇所での実施を目標とする。	

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：80%以上～100%未満
c：60%以上～80%未満
d：40%以上～60%未満
e：40%未満

6 基準説明

100%以上をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

27	28	29
a	a	a

指標名	京都市図書館利用登録者数（万人）
-----	------------------

担当課	生涯学習部施設運営担当	連絡先	8 0 1－8 8 2 2
-----	-------------	-----	---------------

1 指標の説明

京都市立図書館の利用登録者数

2 指標の意味

京都のまち全体が学びの場となることをめざして、市民に最も身近な学びの拠点である図書館の活用状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：京都市立図書館20館の利用登録者数の合計
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	44.9	43.6	約1.3万人減	47.0	中長期目標値(32年度)を段階的に達成していくために、当該年度に達成すべき数値	92.8%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		50万人	32年度	87.2%	21年度実績（40万人）の10万人増	

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：90%以上～100%未満
c：80%以上～90%未満
d：70%以上～80%未満
e：70%未満

6 基準説明

100%以上をaとし、以下10%刻みで基準を設定した。

27	28	29
b	b	b